1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271800284		
法人名	社会福祉法人ゆりの木会		
事業所名	グループホームゆりの木苑		
所在地	千葉県東金市家徳752-12		
自己評価作成日	平成27年12月26日	評価結果市町村受理日	平成28年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成28年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当苑の理念である夢と感動そして安心と楽しさを実現する為に、職員が日々の生活での気づきを活かし、各職種協働しながら、その方を中心に考え、より良い支援ができる様に業務に従事している。またゆりの木苑自体が地域資源として、地域に貢献する為の一環として、浅井ヘルスケアグループで開催している認知症カフェを通じて、地域と共生できる様に職員一同取り組んでいる。

そして連携病院である浅井病院協力の下、ご入居者への受診負担の軽減を目的として、ゆりの木苑での内科受診、精神科受診、歯科受診(回診)が行える様になっている。

職員のスキルアップをゆりの木苑全体でフォローアップしている。具体的にはキャリアパス制度に沿った介護技術のOJTや外部コンサルタントの助言を得ながら作成した人事考課制度を取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

最寄駅JR東金駅から車で10分程、東金市郊外の自然環境に恵まれた一角に建てられたホームです。系列の事業所(特別養護老人ホーム・デイサービス等)が隣接しており、消防訓練、各種行事、研修会、食事等が連携し共同で運営されています。又近隣に系列病院もあり、利用者、家族に医療と介護の連携により、信頼と安心感があります。

理念「夢と感動そして安心と楽しさ」と「住み慣れた地域でそのひとらしい生活をおくる」を掲げ、全職員で利用者の思いに寄り添い家庭的な介護を実践しています。運営法人のイベント(はんでん木祭り・ゆりの木祭り等)や福祉ライブは利用者、家族、地域住民に定着し交流の場になっています。又毎月開催している認知症カフェでは、地域の人に認知症の理解を深めて相談し合える場所を提供しており、地域に貢献しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆりの木苑の理念である「夢と感動そして安心と楽しさ」を実現できる様に、ご利用者に合ったプランを作成し、実践している	地域密着型の意義を踏まえた理念を、パンフレットに記載し各フロアに掲示しています。全職員は、申し送り時や全体ミーティング時に唱和、共有し日頃のケアの中で実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	浅井ヘルスケアグループで開催されているはんでん木祭りや、ゆりの木苑で開催しているゆりの木祭やふれあい祭りを通し、交流している	町内会主催の行事(盆踊り、ゴミゼロ運動等)に参加する他、ボランティアを受け入れフラダンス、笑いヨガなどで交流を図っています。施設の祭りや福祉ライブでは、利用者、家族、近隣住民を含めて多数の参加があります。認知症カフェも含めた地域貢献活動も定着しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	27年5月より浅井ヘルスケアグループでオレンジプランでも推奨されている認知症カフェを開催し、グループをあげて地域貢献している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、日々のサービス提供の状況を報告し、地域の住民の方等に助言を頂き、地域の一員として共生できる様努めている	会議は既に5回実施し、今後3月に開催の予定です。市担当、地域包括支援センター、社協、家族代表、区長、施設長、管理者が出席し、サービス内容・行事報告、認知症カフェ、防災訓練等について話し合い、意見をサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に運営推進会議を開催し、日々のサービス提供の状況を報告し、市役所の担当者へ助言を頂き、サービスに活かしている	市の関係課とは常に連絡を取り合い、密接な協力関係が築かれています。運営推進会議にも市担当の出席があり、忌憚のない意見を貰いサービスに活かしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ゆりの木苑にて、不審者の侵入により、現在は玄関の施錠を行っている。また身体拘束廃止委員会を中心に、身体拘束についての情報伝達を行っており、日々の生活の中でご利用者が外へ出たいという希望に沿って応対している	運営法人の、身体拘束廃止委員会にホームから3名が出席し活動しています。職員は定期的に社内・外部研修に積極的に参加し理解を深めています。玄関は日中も施錠していますが、職員が利用者の拘束感に配慮し見守っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ゆりの木苑に研修委員会があり、職員全員を対象にした、高齢者の虐待防止の研修が開催され、参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ゆりの木苑に研修委員会があり、職員全員を対象にした、権利擁護に関する研修が開催され、参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時また契約後も、その内容に関する説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族の参加をして頂いている。参加ができない場合は、連絡した際にご家族の意向を伺い、日々のケアに活かしている	家族には、来訪時、運営推進会議、行事参加時を利用して、意見・要望を聴き運営に反映しています。外部評価に際し行う家族アンケート調査も参考にしています。利用者は日頃の介護の中で思いを把握して対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善委員、グループホーム会議にて意見の吸い上げを行い、業務改善に努めている	管理者は、日頃の対応やグループホーム会議、業務改善委員などの意見・要望を聴き運営に反映させています。又運営法人の各委員会(身体拘束、感染症、リスクマネジメント、給食等)に各ユニットの職員も参加し、意欲向上と自主性を発揮することで、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の人事考課を取り入れ、職員の努力や取り組みについての評価を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスを基にした、OJTにて介護技術の研鑽をしている。またゆりの木苑研修委員会の行う研修や外部で行う研修にも参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症カフェを通じて、他の施設の方々との交流があり、サービスの質向上に繋がる様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者と接する際には、その方との距離や目線の高さに配慮し、お話を伺っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約する時等にご家族からの不安やご意向に耳を傾け、その問題を一つひとつ解決できるように職員一同努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者からお話を伺う、また在宅での生活の様子からご利用者が安心して生活できる様に、援助の優先順位をプランに示している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と共に洗濯物たたみなどの家事を行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に参加できる行事を企画し、ご利用者とご家族の繋がりを支える事ができる様支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅での生活をしている時の馴染みの方が、来苑して下さい、関係性が継続している	「皆さんの笑顔が素敵です」という家族アンケートからもホームが訪問しやすく明るい雰囲気であることが窺えます。面会時間は特に制限を設けず、昔からの知人や職場仲間、家族が気軽に訪れています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の生活空間を大切にして、複数で行うレクや個人で行うリハビリ等、ご利用者との距離感を大切にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後のご家族とも、接する機会があり、お話しをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的また必要時に担当者会議を開催し、会議を開く際に担当者がご利用者およびご家族のご意向を聞き、日々の生活の質向上に活かしている	丁寧にアセスメントし「利用者にとって心地よいことが何か」を探っています。地図や古銭集めを楽しむ利用者もいます。発語のない人の表情や行動パターンから、トイレに行きたいのではないかなど、食事が食べにくいのではないかなど、利用者の思いを汲んで対応しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前調査表を活用し、在宅での生活環境等やどのような生活をなされていたかの把握をして、ケアプランに活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用前調査表を活用し、ご入居前の心身の情報や現在行えている事の情報を活かしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的また必要時に担当者会議を開催し、会議を開く際に担当者がご利用者およびご家族のご意向を聞き、日々の生活の質向上に活かしている	入居時の本人・家族からの聞き取りに加えて医療情報・在宅時のケアマネージャーからの情報をもとに介護計画を作成しています。毎月モニタリングし、3か月ごとに担当者会議を開いて計画を見直しています。担当者会議には看護師や栄養士、居室担当者など関係者が出席して現状について話し合っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、その事実を基に、課題やサービス内容を作成、見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設の基本指針にパーソナルケアがあり、その方に合ったサービスを、浅井ヘルスケアグループ全体で検討出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校主催の催しへの参加や、東金市消防本部の指導による、避難訓練を実施している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携病院の浅井病院の医師が主治医となり、受診状況をご家族へ伝達し、関係を築いている	入居時に主治医について本人・家族の意向を確認していますが、現在は全員提携病院の医師による訪問診療を利用しています。精神科や歯科などの専門医との連携もっており、健康管理については家族から大きな信頼を得ています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況や体調変化があった際に、状況を看護師へ伝え、看護や受診に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携病院の浅井病院や、他の病院へ入院する際も、看護サマリーへ情報を記載し、治療に役立ててもらっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の疾患について、十分に把握し、急変が起こった場合は速やかに、連携病院の浅井病院へ受診できる様になっている	本人・家族に重度化した場合の事業所の指針を示しています。最終的には提携病院への移行になりますが、本人・家族の意向を尊重し、医療処置が必要になるまで可能な限りホームで過ごせるよう体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師主導の急変時対応の訓練開催を2月に予定している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難に関しては、ご利用者の参加した避難訓練を行い、また災害対策の外部研修に参加し、その伝達研修を実施している。東金市消防本部へも訓練時に、ご利用者の状況を伝えている	消防署立会による避難訓練(夜間想定含む)2回と自主訓練1回を実施しています。スプリンクラー、消火器、通報装置等必要な防火設備は整っています。連絡網や対応表は掲示してあります。備蓄も3日分準備されています。	運営推進会議の中でも、火災の場合近隣の協力について話し合いが行われていますが、高齢者が多いので、消防署、地域住民(町内会)の連携による災害避難訓練を実施すること、及び備蓄品の数量、内容について継続的な見直しが見られます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者へ尊敬の念を持ち、ご利用者への声掛けにも、声の大きさや、他の方に聞かれないような事にも気を配り対応している	年1回プライバシーの研修を受けて、人格の尊重とプライバシーの確保について学んでいます。また半年ごとに言葉使いや対応が適切であるかの自己評価を行っています。入浴や排泄時に肌を露出しないなど羞恥心にも日ごろから配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、ご本人のご意向や思いを確認し、また判断をして頂いている。判断が難しい方に関しても、確認する声かけは行う		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の過ごしたい方法、何をしたいかの確認を行い、個別に援助を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	在宅での生活をしている際に着ていた服を、ご入居する段階で持参して頂いている。その服を着てもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者がおかずを選択できる様に、栄養課が中心となり配慮している、また嗜好調査も行っている	ホーム内で調理はしていませんが、本部から届いた食事を利用者が盛り付けたり、テーブルを拭くなどできることを行っています。食器は陶器を使用し、食習慣を大切にしています。また週1回の選択食の日や、すいとん・てんぷら・ロールキャベツなどを皆で作る楽しいイベントもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の疾患や状態に応じて、食事量や栄養バランスに応じて、食事に工夫している（あまり水分の進まない方に、好みの水分を提供する等）		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合った方法で、プランに沿って口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排泄間隔をアセスメントし、個別の排泄誘導を行っている	排泄チェック表をもとにトイレに誘導したり、声をかけるなど個別に排泄を支援しています。リハビリパンツで皮膚がかぶれるので、布パンツに変えて適切に誘導を行なったら、失禁の回数が減ったという例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師の指導の基に、栄養補助食品の使用、リハビリ体操に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	明確にご利用者一人ひとりの希望に沿った入浴時間に入浴は行えていないが、特定の方を夕食後に入浴する工夫をした事がある	タイル張りの広い浴室に数名で入浴しており、毎日ほぼ全員が入っています。浴槽が深いので高さの調整工事を予定しています。色とりどりの花びらを湯舟に浮かせる「花風呂の日」があり、大変好評です。また併設の施設の露天風呂を利用することもあり、入浴を楽しむ支援をしています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一律に時間を設定しての就寝介助は行っていない。個別の入眠のタイミングの把握し、安心して休める様にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の処方箋は確認出来る位置に保管し、内服薬の効果や副作用について確認できる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や近隣のスーパーへの買い物へ出掛ける事ができる様に支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得ながら、お墓参りや住んでいた家の空気の入替えを頼める近隣の方がいる	天気の良い日は近くの寺や公園まで散歩に出かけています。車でドライブをしたり、ファミリーレストランで食事をしたりと外出を支援しています。家族からは写真や記録からよく出かけていることがわかれるとの声が聞かれます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ゆりの木苑に来る移動パン屋さん等を活用し、買い物出来る様にしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からゆりの木苑へ電話があった際に、ご本人とご家族が直接お話し出来る様に支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の生活の中で、お花を生けたり、光が不快にならない様にブラインドを使用したりとして、快適に生活できる様に工夫している	天井は高く、ブラインドや和紙の笠でリビングにやわらかな光が降り注ぎ開放感があります。厨房からのご飯の匂いが生活感を感じさせます。壁には大きな貼り絵が掲示され、ソファが置かれ、利用者は元気にカルタ取りなどを楽しみ居心地良く過ごしています。掃除も行き届いており、室温や臭いにも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室になっており、また共有スペースは、複数のご利用者や職員で過ごす事ができる。ソファやテーブルを設置し、気の合った人同士で話したりする事ができる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で生活している時に使用していた物品類をご入居の際に持ってきて頂くので、それを使用し、心地よく過ごせる様配慮している	ゆったりした居室は、エアコン、クローゼット、洗面台が備え付けで、床は利用者の好みに合わせ畳敷きやフローリングとなっています。ダンス、テレビ、コタツを持ち込み新聞を読むなど、自宅に居るように過ごしている利用者もいます。居室担当者は、定期的に衣替えや室内環境に気を付けています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室の滑り止めマットや、居室の出入り口に、ご利用者が掴まる事の出来る手すりを必要な方に設置し、安全に生活できる様に配慮している		